

氏名	新 良 治
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第 4204 号
学位授与の日付	平成19年9月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	Orthotopic Ileal Neobladder versus Sigmoidal Neobladder: A “Quality of Life” (QOL) Survey (生活の質(QOL)調査による回腸利用自然排尿型代用膀胱とS状結腸利用自然排尿型代用膀胱の比較)
論文審査委員	教授 田中 紀章 教授 荻野 景規 准教授 土井原 博義

### 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

膀胱全摘除術後の尿路変向として腸管を利用した自然排尿型代用膀胱は近年一般的となっている。利用される腸管としては回腸とS状結腸が多い。今回われわれは自己記入式質問票を用いた QOL 調査により、QOL からみて優れた代用膀胱作成における利用腸管について検討を行った。対象は根治的膀胱全摘除術を施行後 3 ヶ月以上経過観察中の自然排尿型代用膀胱の患者 78 名で、使用した質問票は EORTC QLQ-C30、IPSS に、尿失禁、性功能、尿路変向の満足度に関する自作の質問票を加えた。78 例のうち回腸利用群は 63 例 S 状結腸利用群は 15 例であり、調査票の回答を数値化し統計学的解析を行った。EORTC QLQ-C30 の機能評価、および性功能に関しては 2 群間で差はみられなかった。排尿機能に関しては残尿感、頻尿、尿意切迫感、排尿による QOL という項目について S 状結腸利用群の方が不良であり、尿失禁においても不良であった。また、尿路変向に関する満足度でも S 状結腸利用群の方が術前の予想に比べ悪かったと感じる患者が多かった。今回の検討では腸管を利用した自然排尿型代用膀胱を作成する場合、QOL、特に排尿状態、尿失禁に関して S 状結腸より回腸を利用する術式の方が優れていると考えられた。

### 論 文 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、膀胱全摘除後の自然排尿型代用膀胱について、代用膀胱としての回腸とS状結腸の優劣を患者のQOLの視点から評価したものである。

対象は根治的膀胱全摘除術を施行後3ヶ月以上経過観察中の自然排尿型代用膀胱の患者78名で、質問票は EORTC QLQ-C30、IPSS を使用し、尿失禁、性功能、尿路変向の満足度に関しては自作の質問票を用いた。回腸利用群63例、S状結腸利用群15例の解析結果によると、EORTC QLQ-C30 の機能評価、および性功能に関しては 2 群間で差はみられず、排尿機能に関しては残尿感、頻尿、尿意切迫感、排尿など QOL 項目について S 状結腸利用群の方が不良であり、尿失禁においても同様であった。また尿路変向に関する満足度でも S 状結腸利用群の方が術前の予想に比べ悪かったと感じる患者が多かった。

本研究は自然排尿型代用膀胱を作成する場合、S 状結腸より回腸を利用する術式の方が優れていることを QOL 評価によって裏付けたものであり、価値ある業績である。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。